

卒業生へ贈るお祝いの桜の音楽を創作しよう

本題材で育成する資質・能力

「主体性」「課題解決力(探究力)」「振り返り力(メタ認知力)」

- 1 日 時 平成31年1月11日(金) 5校時(14:00～14:50)
場 所 音楽室
- 2 学年・組 第1学年 A, C組(男子 18名, 女子 9名, 計 27名)

1 題材観

本題材は、学習指導要領(音楽科)における「A表現(3)」の指導事項イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。」を受けて設定したものである。「共通事項」は、音色、速度、旋律、構成を扱うこととする。

本題材では、最初に箏曲「さくら変奏曲」を聴き、箏の様々な音色、速さや旋律の変化から、色々な桜の風景を表していることを知覚し、箏を用いた創作につなげることとする。箏曲「さくら変奏曲」の原曲である「さくらさくら」は、小学校第四学年の歌唱共通教材でもとりあげられており、生徒にとってなじみのある楽曲である。また、楽曲では同じ旋律が形を変えてたびたび繰り返されているため、反復、変化、対照などの構成を知覚することができる。そのため、最初に箏曲「さくら変奏曲」を聴くことは、その後生徒自らが表現したい桜の風景を、箏を用いて創作するオリジナル箏曲「さくら」の創作活動へとつなげるのに有効であると考えられる。

また、箏は弦を触れば簡単に音が出て、様々な奏法により特色ある様々な音色を出したり、音色に変化をつけたりすることができる。したがって、生徒自身の想いや意図を表現しやすく、創作活動に適しているといえる。

以上のことから、箏を使用してオリジナル箏曲「さくら」を創作することは、生徒にとって取り組みやすく、2年次に行う伝統芸能における他の和楽器や日本の伝統音楽への興味、関心へとつながっていくことが期待できる。さらに、本題材は社会科の授業における歴史的分野(2)「古代までの日本」ウ 国際的な要素をもった文化が栄えたこと と関連付けることにより、教科横断的なカリキュラムマネジメントを行うことができる

2 生徒観

本学年生徒の、授業中に実施した「箏」に対するアンケート結果は以下の通りであった。

<箏>

項目	はい	いいえ
箏に興味がある	40.7%	59.3%

箏を弾いたことがある	44.4%	55.6%		
	楽しそう	簡単そう	退屈そう	難しそう
箏のイメージ（複数回答可）	27.3%	6%	6%	60.6%

1年生は、小学生の頃、箏クラブで何人かの生徒は琴を弾いた経験があるようで、その結果が数字になっていると考えられる。続いて「作曲」に対するアンケートは以下の通りであった。

<作曲>

項目	はい		いいえ	
曲を創ってみたい、また、創ってみたいと思ったことがある	44.4%		56.6%	
	楽しそう	簡単そう	退屈そう	難しそう
作曲のイメージ（複数回答可）	32.3%	0%	0%	67.7%

以上の結果から、箏や作曲に対して興味をもっている生徒は半分以下で、「難しそう」と考えている生徒が60%以上であることが分かる。

また、平成30年度7月に実施した三和中学校生徒質問紙調査において、本学年の音楽の授業に関する質問紙調査の結果は以下の通りであった。

項目	そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらかという とそう思わない	そう思わない
(1) 授業では、課題を解決するために、「どのような方法だと解決することができるか」を考えています。	29.6%	55.6%	14.8%	0.0%
(2) 授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見つれたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えています。	33.3%	59.3%	7.4%	0.0%
(3) 授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	37.0%	48.1%	14.8%	0.0%

元々様々なことに意欲が高い学年であるが、以上の結果から、課題設定の方法を工夫し、生徒が必然性をもって取り組めるように授業を工夫することや、自分の意見を積極的に伝えられるように根拠を明確にして発言できるような発問の工夫が必要であることが分かった。また、情報の整理分析の際に、仲間の曲と自分の曲を比較する等、客観的に楽曲を分析する場面を設定する等、活動を工夫する必要があると考える。

3 指導観

前述のような生徒実態を受けて、指導にあたっては、以下の工夫を行う。

(1) 主体的・対話的で深い学びに向けた指導の工夫

- ・部活動や委員会活動を通して憧れをもった3年生への卒業祝いとして創作をすることで、課題に対する必然性と意欲をもたせる。
- ・自分の表現したい桜のイメージを可視化することで、他の生徒ともイメージを共有し、意見を言いやすくする。
- ・創作した旋律を、仲間と聞き合い意見を言い合うことで、課題解決に向けた目的意識をもたせる。

(2) 振り返り場面の指導の工夫

- ・OPP Aシートを活用し、学習内容の理解の状況を把握させる。
- ・「授業中に理解できたこと」、「疑問に思ったこと」、「新しく学んだこと」、「これまでに学習したこととの関連」を示すことで、振り返りの視点を明らかにする。
- ・自己評価だけでなく他者評価を取り入れ、客観的に自分を振り返る材料を与える。

(3) 生徒の実態に合わせた指導の工夫

- ・単元の最初の授業で単元全体の流れ及び最終ゴールを提示することにより、学習の見通しをもたせる。
- ・本時の学習の流れを掲示したり、デジタルタイマーを使用したりするなど、課題解決に当たっての見通しをもたせる。
- ・記譜等のチェックを教師のみが行うのではなく、グループ活動を活用することにより、生徒同士での教え合いの機会をつくる。
- ・記譜は、リズム譜をアレンジしたものを用いることで、苦手意識をもつ生徒にも創作に対する意欲をもたせると共に、支援が必要な生徒に対してヒントカードを提示する。
- ・既習事項である、「四季より『春』」の学習でソネット（詩）と音楽との関係を学習したことや、尺八曲「巢鶴鈴慕」の学習で尺八独特の奏法と音色から、鶴の行動や気持ちを想像した活動を生かし、写真や標題からイメージした音楽をつくる活動へとつなげる。

4 指導と評価の計画

○ 本題材で身につけさせたい資質・能力と評価基準

資質・能力	評価基準		
	I	C	E
主体性	・桜の風景を音で表現するために、箏の奏法を2つ以上用いて音色を工夫し、創作活動に取り組んでいる。	・桜の風景を音で表現するために、音色の他に、速さや旋律などを意図をもって工夫し、創作活動に取り組んでいる。 ・班でオリジナル箏曲「さくら」をつくるために、曲の構成を工夫し、桜の風景を音楽で表現しようとしている。	・曲をつくることを通して、どの曲にも作曲者の様々な思いや意図が込められていることを理解して、他の楽曲でも作曲者の思いや意図、作曲背景を探ろうとしている。
課題解決力 (探求力)	・いくつかの奏法の中から、自らの表現を選び、イメージに合った表現を追求している。	・参考曲や、友達の創作した曲と比較し、自分のイメージにあった表現を、更に追及している。 ・他の班と比較して、自分たちのつくった曲を分析し、どこをどうしたらよりよくなるのかを考えて、解決することができる。	・他の楽曲でも、どこがどのようなになっているのか楽曲分析をして、表現を深めたり工夫したりすることができる。
ふりかえり力 (メタ認知力)	・箏の奏法や音色の特徴、速度の変化について理解し、自分がなぜその奏法をとりあげたのかについて、想いや意図をもっている。	・箏の奏法と音色の関係、曲の速さや旋律と表現したいイメージの関係について、想いや意図を明確にもって表現している。	・行った工夫が楽曲の表現にどのような影響を及ぼしたか、表現したいイメージと関連付けて客観的に分析することができ、他の楽曲の表現にも生かすことができる。

〈題材の目標〉

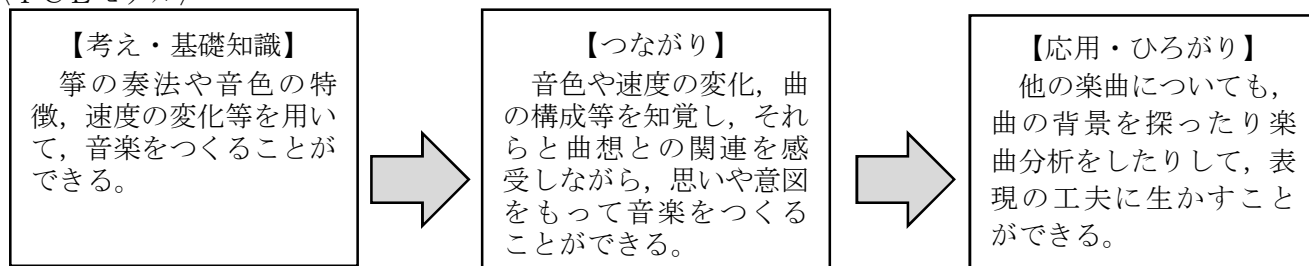
・表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる。

【A表現（3）イ】（共通事項 音色、速度、旋律、構成）

〈評価規準〉

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
・箏の音色の特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	・箏の音色や旋律、速度の変化を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ・音楽で表現したいイメージをもち、箏の音色、旋律、速さが生み出す特質や雰囲気を感じながら、反復、変化、対照などの曲の構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	・箏の音色の特徴を生かし、音色や奏法の組み合わせ、音の高さ、速さを工夫し、簡単な旋律をつくっている。 ・箏の音色の特徴、反復、変化、対照などの曲の構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。

〈ICEモデル〉



（全6時間）

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点			評価
			関	表	技	◇評価規準 ★資質・能力（評価方法）
1	課題設定 本時の目標：パフォーマンス課題を知り、解決するための手段や方法について考えることができる。 ○パフォーマンス課題の確認をする。 ・パフォーマンス課題を知り、創作活動に興味をもつ。 ○使用する基になる曲を聴く。 ・箏曲「さくら変奏曲」を聴き、曲の構成について知る。 ○作曲する桜の風景をイメージする。	・曲ってどうやってつくるのだろう。 ・楽譜の書き方や音符の書き方が不安だ。 ・曲のイメージがあるといいな。 ・箏は風流な音色だな。 ・お正月などのお祝いの時に流れそうな音色だな。 ・この場面の変奏は、さくらが散っている場面かな。 ・この場面の変奏は、さくらがつぼみなかな。 ・箏は色々な音色が鳴るな。 ・卒業生に、お祝いの気持ちを込めて満開の桜をプレゼントしたい。				◇箏の音色の特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。（ワークシート）

			・桜の花びらがひらひら落ちて、卒業して少し切ない感じを表現したい。				
2	情報収集①	本時の目標： 箏の奏法を学び、イメージした桜の風景と合う奏法を2つ以上組み合わせることで表現することができる。					
		○箏の奏法や楽譜について学習する。 ・奏法によって、様々な音色が出せることを知る。 ・楽譜は漢数字が用いられていることを知る。 ○イメージした桜の風景に合う奏法を選ぶ。 ・2つ以上の奏法を選ぶ。 ○奏法を組み合わせ、箏を弾く。 ・音の高さや速さを変えてイメージに合わせた演奏を探る。	・箏は弦をはじけば簡単に音が鳴るな。 ・様々な奏法があるな。 ・楽譜に書かれている数字の弦を弾けば曲が弾けるのか。 ・この奏法よりこっちの奏法が弾んだような感じだから、ぼくのイメージする桜に合うな。			○	◇箏の音色や旋律、速度の変化を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ★桜の風景を音で表現するために、箏の奏法を2つ以上用いて音色を工夫し、創作活動に取り組んでいる。(ワークシート)【主体性】
3	情報収集②	本時の目標： 選んだ箏の奏法を2つ以上組み合わせ、4小節以上の旋律をつくることができる。					
		○前時に選んだ奏法を用いて、4小節以上の旋律をつくる。 ・リズム譜の書き方、奏法の記入の仕方、使用する弦の記入の仕方を知る。 <u>作曲のルール</u> ・選んだ奏法を2つ以上組み合わせ、4小節以上の旋律をつくる。 ・イメージに合わせて速さを決める。途中で変えても良い。 ・4小節以上8小節以下の曲をつくる。 ○仲間の作品と自分の作品を比べる。 ・真似したいところと改善点を伝え合う。	・桜がゆっくりと間を空けて落ちてくるようなイメージを出したいから、長い音を使って余韻を味わってみようかな。 ・切ないイメージを出すために、少しテンポをゆっくりにしようかな。 ・水面に桜が揺れている様子を表現したいから、押し手を使おうかな。 ・○○さんの様に、音の高さを変えるだけでも雰囲気が変わることが分かった。			○	◇箏の音色の特徴を生かし、音色や奏法の組み合わせ、音の高さ、速さを工夫し、簡単な旋律をつくっている。 ★鑑賞した曲や、友達の創作した曲と比較し、自分のイメージにあった表現を、更に追及している。(ワークシート)【課題解決力】
4	整理・分析①	本時の目標： 桜の物語に合うように曲の構成を工夫し、仲間の旋律をつなげて班でオリジナル箏曲「さくら」をつくることができる。					
		○班で旋律をつなげる。 ・班員の旋律をつなげて、班で一つの桜の曲にする。 <u>旋律をつなげるときのルール</u> ・表現したい曲や物語になるように、曲の構成を考える。 ・そのままつなげて良いし、次の人との間につなぎや間を入れても良い。 ・全員の曲が一回は入るように工夫をするが、一人一回ずつでなくても良い。 ・一人で弾いても良いし、他の人が合いの手を演奏しても良い。 ・最初に「さくら」のテーマを8小節演奏してから、オリジナルの旋律を弾き始める。	・どの桜の順番でつなげた方がいいかな。 ・「さくら変奏曲」では、同じ旋律を繰り返していたな。 ・○○さんと△△さんの曲の場面は違うから、2人の間でつなぎを何か演奏しよう。 ・休符に合いの手を入れたら、鳥の鳴き声も表現できるかも。			○	◇音楽で表現したいイメージをもち、箏の音色、旋律、速さが生み出す特質や雰囲気を感じながら、反復、変化、対照などの曲の構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ★班でオリジナル箏曲「さくら」をつくるために、曲の構成を工夫し、桜の風景を音楽で表現しようとしている。(行動観察、ワークシート)【主体性】

まとめ・創造・表現		本時の目標：他の班の曲と自分達の曲を比べて良いところを取り入れながら、さらに良い音楽をつくることができる。				
5	○各班の演奏を聴く。 ・班でつくった曲について解説し、演奏をする。 ・他の班の演奏を聴き、表現を深める。 議論の視点 ・イメージに合う 旋律（音の高さ） になっているか。 ・イメージに合う 奏法（リズムや音色） であるか。 ・イメージに合う 構成 であるか。 ○班でさらに良い曲にする。 ・他の班の演奏を聴いて気づいたことを活かして自分たちのイメージにより近い表現を探る。	・途中のつなぎで物語の雰囲気さをさらに出していたな。 ・なぜ、この風景で、あの奏法ではなくてこの奏法を使ったのだろう。 ・なぜ、この曲順にしたのだろう。 ・なぜ、この音の高さにしたのだろう。 ・ここの音高を変えて表現してみようかな。 ・ここに他の奏法を足してみよう。 ・つなぎに余韻を持たせて、雰囲気をつくってみようかな。			○	◇箏の音色の特徴、反復、変化、対照などの曲の構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。 ★他の班と比較して、自分たちのつくった曲を分析し、どこをどうしたらよりよくなるのかを考えて、解決することができる。（ワークシート）【課題解決力】
6	振り返り パフォーマンス課題 ○グループで練習する。 ・前時で深めた表現を演奏できるようにする。 ○録音をして聴き、改善を考える。 ○仕上げの録音をする。	・前時に取り入れた奏法がまだ上手く弾けないな。 ・高い音で桜を表したけど、客観的に聞くと高い音より低い音を強調させて弾いた方が夜の感じがするな。			○	◇箏の音色の特徴、反復、変化、対照などの曲の構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。 ★曲の速さや旋律、反復、変化、対照など曲の構成を工夫させたり、更に強調させるところを加えることで、曲がどのように変化したかや、どのように表現が深まったかが分かっている。（ワークシート）【ふりかえり力】

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	主体性、課題解決力（課題解決力）、ふりかえり力（メタ認知力）
教科の評価規準	3年生のために、2月の終わりのお茶会で雰囲気を作るために流すオリジナル箏曲「さくら」をつくってプレゼントしよう。

パフォーマンス課題のシナリオ

2月28日（木）の3年生のお茶会の日に、箏の曲を流して雰囲気をつくろうと思います。その日は3年生にとって卒業前に和文化を体験する貴重な日です。みんなにとって3年生は部活や生徒会活動や様々な行事での憧れの先輩だったと思います。せっかくですので、3年生へのサプライズの気持ちを込めてみんなの創った箏の曲を流し、3年生にお祝いの気持ちを伝えることができたらと思います。

そこで、以下の3つの条件でオリジナル箏曲「さくら」をつくりCDに録音し、3年生へプレゼントをしましょう。

条件① 自分の選んだ桜の写真を、箏の奏法（2つ以上）、音色、音の高さ、速さで表現する。

条件② 1人4小節以上8小節以下で旋律をつくる。

条件③ 表現したい曲や物語になるように、班で曲の構成を考える。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	・曲の説明を音楽の用語を正しく用いて、わかりやすく説明することができる。 ・思いや意図をもって、イメージに合った音色、速度、旋律を選んで演奏し、かつ反復、変化、対照などを効果的に用いて曲をつくり演奏することができる。
2 合格	・曲の説明を音楽の用語を用いて説明することができる。 ・思いや意図をもって、イメージに合った音色、速度、旋律を選び、グループで曲の構成を工夫して演奏することができる。
1 乗り越えさせたい実態	・音楽の用語を用いて説明ができない。 ・用いた音色、速度、旋律に特に思いや意図がない。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

桜の物語に合うように曲の構成を工夫し、仲間の旋律をつなげて班でオリジナル箏曲「さくら」をつくることができる。

(2) 本時の評価規準

音楽で表現したいイメージをもち、箏の音色、旋律、速さが生み出す特質や雰囲気を感じながら、反復、変化、対照などの曲の構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

(3) 準備物

ワークシート、箏（各班に2面）、物語が書かれたワークシート

(4) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意事項 ◆配慮の必要な生徒への支援	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 本時の課題を発見する。〔5分〕			
○前時までの活動を振り返る。	◇前時までは、個人で曲を創作したが、どのようなことを工夫して創作をしてきたかを発表させる。		
○「さくら変奏曲」の曲の構成を思い出す。	◇反復、変化、対照などの曲の構成を思い出させる。		
○本時の目標を確認する。	◇授業の流れを説明する。		
【本時の目標】			
桜の物語に合うように曲の構成を工夫し、仲間の旋律をつなげて班でオリジナル箏曲「さくら」をつくることができる。			
2 課題解決の方法を考える。〔10分〕			
○2つの曲（AとB）を聴き、それぞれの曲からどのような印象を受けるかを発表する。	◇最初に曲想の異なる2つの旋律を聴かせ、次に2つの旋律をつなげた曲を2種類（AとB）聞かせ、良い方を選ばせる。		
(A) 2つの旋律をただつなげただけの曲。		(B) 2つの旋律の中につなぎがあったり、1つの旋律の裏で合いの手があったり、1回演奏して終わるのではなくて、繰り返しがあったり（反復、変化、対照）する曲。	

【予想される生徒の反応】 ・ Aの曲とBの曲は使っている旋律は同じだけれど、Bの曲の方が色々な桜の風景が浮かんでくる気がして、聴いていて面白いな。 ・ Aの曲よりBの曲の方が、音が重なっていたり、速さに変化があって、聴いていて色々な桜の風景が想像できるな。			
○ルールを確認する。	◇Bには旋律間のつながり、合いの手、反復、変化、対照が使われていることを確認する。 ◇旋律をつなげる時のルールを説明する。		
＜旋律をつなげる時のルール＞ ・ 表現したい曲や物語になるように、曲の構成を考える。 ・ そのままつなげて良いし、次の人との間につなぎや間を入れても良い。 ・ 全員の曲が一回は入るように工夫をするが、一人一回ずつでなくても良い。 ・ 一人で弾いても良いし、他の人が合いの手を演奏しても良い。 ・ 最初に「さくら」のテーマを8小節演奏してから、オリジナルの旋律を弾き始める。			
3 課題解決に向けて議論する。〔25分〕			
○どのように旋律をつなげたら良いかを考え、議論する。	◇桜の物語を表現するにはどのように旋律をつなげたら良いか、構成を考えさせる。 ◇箏を弾いて試しながらさせる。 ◇なぜそのようにするのか根拠を明確にさせる。 ◆自分の考えが浮かばない場合は、仲間の意見に対してどう思うかを言わせる。 ◆奏法や構成についてのヒントカードを提示する。	音楽で表現したいイメージをもち、箏の音色、旋律、速さが生み出す特質や雰囲気を感じながら、反復、変化、対照などの曲の構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（ワークシート）	班でオリジナル箏曲「さくら」をつくるために、曲の構成を工夫し、桜の風景を音楽で表現しようとしている。（行動観察、ワークシート）【主体性】
【予想される生徒の反応】 ・ ○○さんと△△さんの旋律の場面は違うから、2人の間でつながりを何か演奏しよう。 ・ 休符に合いの手を入れたら、鳥の鳴き声も表現できるかも。 ・ 昼の場面をもう一度出したいから、○○さんの旋律をもう一度出してみよう。			
4 本時のまとめをする。〔10分〕			
○各班で話し合ったことを交流する。 発表の視点 ・ うまくいったこと ・ うまくいかなかったこと ・ もっと工夫してみたいこと ○振り返りを行い、学びの自覚を記録する。	◇他の班の発表を参考にするために、自分たちの班の意見と比較しながら聞かせる。 ◆OPPAシート（1枚ポートフォリオ評価）を活用する。		
【予想される生徒の振り返り】 ・ 曲の間につながりを入れたら、場面の違いやテンポの違いが違和感なくつなげられた。 ・ つなぎを入れたかったけど、速さがよくわからなくなってうまく入れられなかった。 ・ つなぎや余韻の残し方、合いの手をもっと工夫したら更に雰囲気が出ると思った。			

板書計画

本時の目標：桜の物語に合うように曲の構成を工夫し、仲間の旋律をつなげて班でオリジナル箏曲「さくら」をつくることができる。

流れ

- ① 課題設定：5分
- ② 課題解決の方法を考える：10分
- ③ 課題解決のための議論：25分
- ④ 全体交流：5分
- ⑤ まとめ記述：5分

<今まで工夫してきたこと>

- ・音色
- ・旋律
- ・速さ

<今日特に工夫すること>

- ・構成

合いの手

反復，変化，対照

場面のつなぎ

<旋律をつなげる時のルール>

- ①表現したい曲や物語になるように、曲の構成を考える。
- ②そのままつなげても良いし、次の人との間につなぎや間を入れても良い。
- ③全員の曲が一回は入るように工夫をするが、一人一回ずつでなくても良い。
- ④一人で弾いても良いし、他の人が合いの手を演奏しても良い。
- ⑤最初に「さくら」のテーマを8小節演奏してから、オリジナルの旋律を弾き始める。

<振り返りの視点>

- ・うまくいったこと
- ・うまくいかなかったこと
- ・もっと工夫してみたいこと